

令和8年10月13日

保護者の皆様

豊田市立駒場小学校
校長 北島 加奈子

令和8年度運動会での高学年表現種目について

秋麗の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度の運動会に向け、高学年（5・6年生）が取り組む表現種目について、大変前向きな、そして大きな挑戦がございますので、その背景と子どもたちの思いをご説明させていただきます。

本校では、長年にわたり高学年の伝統として、「トーチワーク」を脈々と受け継いでまいりました。歴代の児童たちが真剣な表情で取り組み、見事にやり遂げてきた姿は、駒場小学校の誇りであり、保護者の皆様にとっても深く記憶に残るものであったと認識しております。

しかしながら、長年大切に使用してきたトーチ棒の経年劣化や、時代に合わせた音楽の編曲問題、そして限られた練習時間など、従来の形をそのまま全員で維持していくには、ハード面・時間面での大きな課題に直面しておりました。これからの高学年の表現はどうあるべきか。学校と子どもたちで向き合ったとき、当初は「新しくソーラン節に挑戦したい」という6年生と、「憧れのトーチワークに挑戦したい」という5年生との間で、意見が分かれる場面がございました。しかし、最高学年である6年生が「5年生の熱い想いも大切にしたい」と寄り添い、双方の願いを叶える「3部構成」の新たな形を自分たちの手で提案してくれたのです。まさに、子どもたちが「自分らしく 仲間とともに やってみたい やってみよう」の合言葉を自ら体現し、主体的に歩みを進める姿に、教職員一同、深い感銘を受けました。私たちは、この子どもたちの純粋な想いと大いなる挑戦を、精一杯全力で支え、伴走していくことを決意し、今年度は以下のような、「伝統の継承」と「新たな伝統の創出」、そして「高学年の大団結」を一つのストーリーとして描く表現に挑戦いたします。

●【前半】5年生による伝統の継承「トーチワーク」

これまでの駒場の伝統をしっかりと胸に刻み、5年生がトーチワークを引き継ぎます。なお、使用するトーチ棒の経年劣化などを踏まえ、伝統ある駒場小学校のトーチワークの披露は今年度が最後となります。安全面に十分に配慮した上で、限られた時間の中でも6年生からの手ほどきを受けながら集中して取り組み、伝統の美しさと凛とした姿を表現します。

●【中盤】6年生による新たな伝統の創造「駒場ソーラン」

最高学年である6年生は、自分の身体全体と声を使って力強さを表現する「ソーラン節」に挑みます。先輩たちの「高学年としての誇り」を受け継ぎ、新たな伝統として下級生から憧れられる種目を創り上げます。

●【フィナーレ】5・6年生全員による圧巻の「大ソーラン」

最後は、6年生に5年生が合流し、高学年全員でのソーランの形へと繋がっていきます。この姿がこれからの駒場小学校の新たな伝統の形として受け継がれていくという強い想いを胸に、全員の熱量が一つに混ざり合い、会場全体に大きな躍動の波を作り出します。

伝統の形が変わることに対し、戸惑いを感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、子どもたち自身が「新たな駒場小の歴史を創るんだ」と目を輝かせている姿は、形を変えても「一致団結し、下級生の手本となる力強い姿を示す」という伝統の精神が、より深い形で息づいている証拠であると確信しております。

現在、5・6年生の児童たちは、それぞれの役割とお互いの表現を尊重し合い、声を掛け合いながら熱心に練習に励んでおります。当日は、そんな高学年児童の姿に、温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

○ この件に関するお問い合わせは、教頭 小守（電話 0565-57-2507）までお願いします。